

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092000175		
法人名	有限会社 松本プランニング		
事業所名	グループホーム 太乙		
所在地	福岡県柳川市大和町豊原669		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果確定日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和05年01年10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

「ご利用者様の思いや願いを叶えるお手伝い」が当事業所の理念です。適切なケアの提供にあたっては、迷ったときはご利用者様をスタッフ自身や、スタッフの親に置き換えて判断するように努めています。常にご利用者様中心のケアを心がけております。また食事は、利用者様の希望を取り入れつつ、地元の食材を使った地域色豊かな手料理を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 太乙」はR3.9に開設された2ユニットの事業所である。「太乙」とは地元神社宮司が名付しており「無限大」の意味がある。母体法人はもともと地元でガスや家電を扱う事業を行っており、グループホームの他に福祉用具販売・レンタル、有料老人ホーム、デイサービス、小規模多機能施設等の介護事業を展開している。最寄り駅から徒歩圏内で周辺はのどかな環境にあり、建物は平屋で中2階があり、水害などの災害に備えている。職員は利用者の方一人一人の思いや願いを少しでも叶えるお手伝いができるように、自分の親に置き換えて考え、日々の業務を行っている。食事は法人全体で調理しており、毎日調理担当が市場へ買い付けに行き、新鮮な魚や野菜を購入し、又、近所からの果物等の差し入れもあり、旬の物を取り入れた食事を提供している。地域の方との関係も開設以来良好に構築しており、今後ますます地域福祉の拠点として活躍が期待される事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、職員が常に目に入る所に掲示し認識しています。	法人全体の理念を法人代表者が作成している。玄関、事務所に掲示しており、職員全員が理念を把握している。申し送り時等に「ご利用者様の思いや願いを叶えるお手伝い」を念頭において職員間で意見交換を行い日々の業務に繋げている。	理念をより理解し、日々の業務に活かせるように、会議などで定期的に唱和や理念についての話し合いを行ってみたいかどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、地域の祭りやボランティアの来所等が中止となり、利用者と地域とのつながりを支援することができなかった。	町内会には加入しており、地域のお便り等はポストに自治会より届いている。感染症対策のため、地域行事には参加できていないが、散歩時に挨拶を交わしたり、近所の方が来訪することもあり、地域との関係は良好であり、できる範囲で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	柳川市の方々から入居の申し込みや問い合わせがあった際には、申し込み手続きの案内とともに現況をお聞きし、グループホームで提供できる認知症ケアについてお伝えしている。今後は今まで支援してきた介護方法等地域に活かせる機会を持ち還元していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者1人1人のサービスの実際を家族、関連事業所等と連携しサービスの向上に努めた	感染症対策のため、運営推進会議は事業所内職員のみで2ヶ月に1回行い、施設での行事や状況等書かれた議事録を市、地域包括、区長、民生委員、公民館館長等に直接訪問し渡し、利用者家族へは郵送している。事業所開設時よりコロナ禍にあり、開催できていないため、早く開催できることを希望している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議資料と照会書を介護保険課に地域包括支援センターに送付し、事業所の運営状況をお伝えしている。	市へは運営推進会議の議事録は持参、相談や事故報告等もできるだけ直接行き担当者へ行っている。介護保険の申請も窓口訪問している。直接訪問することにより、顔を覚えてもらい、協力関係を築けるように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動制限のないように日頃からさりげなく見守りし、身体拘束をしないケアの実践にむけた内部研修に全職員が参加している。	年2回職員全員参加し内部研修を行っている。玄関は日中施錠されておらず、離設もあったが、扉開閉時に音楽がなり、職員の見守りや声掛け等で対応している。夜間転倒防止等で身体拘束必要な場合は家族へ説明、同意書を作成、毎月の会議で話し合いを行っている。	

R5.1自己・外部評価票(グループホーム太乙)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し馴れ合い状態での無理な言葉などの静止のならないよう職員間でお互いに注意し合っている。職員間で話し合いをおこない状態把握と対応を行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に1回事業所の勉強会があり参加し学ぶ機会がある。	現在、制度利用者はいないが、定期的な勉強会にて職員が制度の理解を深めている。これまでに管理者、計画作成担当者より1人の方に対し制度利用の説明を行っている。必要時には、地域包括や司法書士等の専門家に相談できる体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時に、契約書・重要事項説明書を詳しく説明し、利用者や家族等の不安・疑問点を尋ね、十分に話し合い、理解と納得を図っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望等は、個々にあった落ち着いた時間帯に耳を傾け日常会話の中から汲み取るようにしている。家族には面会時等に要望等を伺うようにしている。	家族の訪問は感染症対策のため、原則中止しているが、必要に応じて、玄関で10分程の訪問はこれまでも行っている。日頃より、電話や無料通信アプリを利用し利用者の状況等を伝え、家族からの要望も聞いている。家族からの要望等は申し送り帳に記載し職員間で共有している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングの際に話し合いを持ち希望や提案を出して頂いている。	月1回のミーティングには、職員全員が参加している。管理者や計画作成担当者には日頃より相談しやすく、その都度話し合える環境にあり、定期的に自己評価もされており、職員それぞれの意見や提案を反映できるよう努めている。	定期的に自己評価する機会があるため、個別に行動目標等定め、それに対してそれぞれの職員の取り組みを評価する意味での管理者等との個別面談を行い、さらに運営に関しての認識を深めてみてはどうだろうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回(夜勤者に関しては2回)の健康診断を行っているまた、希望者は認知症実践者研修など研修に行っていたい。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。65歳以上の方でも高齢者に対する適切なケアができる方に関しては、元気に働いていただいている。管理者および職員は、業務に対する貢献度や遂行能力について適切に査定を受け、昇給や昇進など人事面における処遇を与えられている。	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。65歳以上の方でも高齢者に対する適切なケアができる方に関しては、元気に働いていただいている。管理者および職員は、業務に対する貢献度や遂行能力について適切に査定を受け、昇給や昇進など人事面における処遇を与えられている。	20～60歳代の職員が配置されている。職員同士のコミュニケーションは良好であり、各職員の能力を活かし製作やレクリエーション活動に役立っている。休憩場所や時間も確保されており、希望休等も可能である。資格取得案内や研修案内も積極的にされており、職員の意欲向上に繋がっている。	

R5.1自己・外部評価票(グループホーム太乙)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月に一度のケア会議において年に2回人権の研修を行っている。	コロナ禍前は管理者が外部研修に参加していた。以前受けた研修資料を活用し定期的に内部研修を行っている。常に敬語で接することを心がけ、言葉遣い等問題があった場合は、その都度職員同士お互いに注意し合うように努めている。	地域包括や社協等の外部機関から、人権関連の学習資料を(DVD等)を借り受け、利用者と一緒に学習機会を設けることを検討してはどうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、事業所全体で勉強会を行っている。スタッフ自身が講師となり、自己学習を行う機会にもなっている。また、オンライン研修なども受講している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の、地域密着型施設の管理者と連携をとり、疑問点や困った点などがあれば電話相談しサービスの質向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、安心した生活が送れる様に、不安や困難事項を早期に対応し、利用者様のニーズを充分に聞き入れ信頼関係を築ける様に努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を始めるにあたり利用者様・家族の方の意見(困難事項・不安要素)を十分に聞き、ニーズを引出す努力を行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況を見極め何が必要か、医療機関・他の専門機関等の意見も参考にし、支援とサービスを取り入れている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性や生活歴を大切にし、ご自分でできる事は可能な限り本人にして頂き、出来ない事はサポートし共に寄り添って暮らして行ける信頼関係作りを努力している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が安心して生活出来るよう家族近況を報告を行い、時には家族の協力を得て、ご本人をサポートできる関係を築いている。		

R5.1自己・外部評価票(グループホーム太乙)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者ののこれまでの生活歴を傾聴し、本人の希望に沿って外出支援や友人・知人等の面会を行い馴染みの人や場所が途切れないような関係を続けられるよう支援に努めている。	感染症対策のため、自宅への外泊ができていないが、友人の来訪や息子妻に髪を切ってもらうために外出したりしている。好きな塗り絵をしたり、観葉植物を育てたり、手芸をしたりと職員は利用者の方に対し個別に対応し、馴染みの人や物、場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の特徴を把握し座席を考え楽しく会話できる場提供し関係作りに配慮している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後も必要に応じ、相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	法人の理念である「ご利用者の思いや願いをかなえると手伝い」常に心がけて生活歴を考慮し、状態や表情から思いや意向を汲み取り本人らしさが出るよう支援している。	入居時に管理者、計画作成担当者が本人、家族、関係者より生活歴等聞き取りアセスメントを行っている。入居後もその都度、本人、家族、職員から情報や意見を聞き取り、意思疎通の難しい方でも表情や仕草、好きな事で声掛けをし意向や思いの把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さま一人ひとりの生活歴や今までの暮らし方を把握して生活環境を整え安心してその方らしい生活が出来るように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握し、その度に職員間で情報共有しサービス記録に記入する等して現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察を行い、小さな変化にも職員間で報告・連絡・相談を行い、チームケアとしてケアカンファレンスを行い、その時々々の現状に応じた介護計画を作成している。	ケアプランは計画作成担当者が中心となり、ケアカンファレンスで本人、家族、職員に聞き取りを行い作成している。見直しは半年に1回、又は、状態変化時に行っている。日々の取り組みや支援内容は記録し3ヶ月に1回モニタリングを行っている。職員はケアプランを常に閲覧できるようにしており、それぞれが支援内容を確認している。	ケアプランに沿った介護サービスが提供されているか、目標達成できているか等、職員全員が常にケアプランを確認、理解できるように、日々の実施記録チェック表を作成してはどうか。

R5.1自己・外部評価票(グループホーム太乙)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートを活用し情報の共有を行い、毎月のミーティングで話し合い、職員の気づきは記録し、実践や介護計画に反映させて毎日の記録もしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ミーティングの機会に支援方法について話し合っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身だしなみを整えることで気持ちに張り合い生まれるよう、出張理美容サービスを利用できる体制を整えている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と関係を築き、受診・定期回診・夜間時の急変時にも対応して頂ける様に医療連携に取り組んでいる。	利用者全員が提携医にかかっており、月2回の訪問診療を受けている。整形外科や眼科等他科受診は家族が通院対応し、その都度家族から報告を受け、申し送り帳に記載し、職員全員が情報共有している。事業所内に看護師が配置されており、日頃より健康管理を行い、提携医との連携もとれている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師が配置されており、勤務外では電話で対応や協力医院の看護師に相談できることになっている。普段から健康管理や医療面を相談して対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医への紹介状、介護経過報告書等を提出し情報交換や連携を協力施設相談員が行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族を含めて、重度化や終末期について説明し、重篤時には掛かりつけ医、家族等協議し、方針を共有している	これまで看取りは行ったことはない。家族へは入居時に重要事項説明書において、重度化した場合や終末期のあり方について事業所のできることを説明している。重度化の際は、事業所と医師とで相談、家族へは医師から説明をもらい、今後の対応の確認、共有を行っている。	

R5.1自己・外部評価票(グループホーム太乙)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の急変時に慌てず対応できるように、緊急連絡先がスタッフルーム内に掲示してあり、常に連絡できるようになっている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月一回、防災避難訓例を行い、年2回(うち1回は地域の住民・消防署・消防団・警察署等の協力のもと)夜間総合避難訓練を行っている。	災害マニュアルあり。年2回防災訓練を行っており、夜間想定での訓練も行っている。水害に備え事業所建物は中2階を作っている。備蓄物は2、3日分の水や食料(カップ麺等)、カセットコンロあり、法人本部には地域の方にも向け炊き出しができるように準備し、地域の方との協力体制も築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が、プライバシーに配慮した言葉かけ等を心掛けてはいる。敬語で対応するよう決められている。	接遇マナー研修は年1回行っている。日頃より敬語で話し、常に人格を尊重する対応を心掛けている。気になる言動があった場合は気付いた時に管理者等から注意している。プライバシー確保に努め、写真使用等は家族に説明し同意書も作成している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が気兼ねせず、希望や想いを発言できるよう働き掛け、自己決定が出来るように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	仕草や行動を見極め、個々にあった生活への思いを察するよう配慮している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様から希望により出張散髪にきてもらったり、出かけて散髪してもらったりしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査や日常の会話より個々の好みを把握し可能な限り、嫌いなものは提供しないよう個別に配慮している。昔ながらのなじみのおかずも取り入れていて、食材はなるべく地元の食材を使用し、栄養バランスにも気を配っている。	法人全体の食事を1カ所で調理している。メインのおかずは月ごとで決めているが、毎日調理担当が買物へ行き、その時の旬の食材を取り入れ調理している。正月等行事食や月1回ふな焼き等ホットプレートを使ったおやつ作りの日もあり、食事が楽しみなものになるように工夫されている。利用者の方はトレー拭き等できることをしている。	

R5.1自己・外部評価票(グループホーム太乙)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりが食べる量(栄養バランス)・水分量を把握し一日を通じて確保し体調管理に努めている。食事が進まない方に対してはカロリー摂取できるよう、工夫している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じ、一部介助や声かけを行っている、出来ない方は職員が介助する、治療が必要な方は病院受診の支援もしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立で排泄出来る方の見守りと介助が必要な方の排泄パターンの把握を行い、個々の能力に応じた排泄援助を行う事で、できるだけ自立に向けた支援を行っています。	各ユニットで水分摂取、排泄がチェックできる表があり、各利用者の排泄リズムが把握できるようになっている。適切にトイレ誘導することにより、オムツの方がリハビリパンツになったりと改善につながっている。夜間はポータブルトイレ使用者もおられ、その人その人にあつた排泄介助が行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の状態に合わせて食べやすい大きさにカットしたり、水分にトロミづけをして提供している。また食事量や水分摂取量に変化が見られた場合は、主治医や看護師に報告して指示を仰いでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	職員は支援の必要な利用者に対し利用者本位で入浴への声掛けや、本人の希望に合わせて入浴支援を行っています。	一人週2~3回、個浴にて入浴。ゆず湯等の季節湯もある。利用者の体調等にも配慮し入浴時間は流動的に対応している。備え付けの石鹸、シャンプーがあるが、希望の物を使用できる。入浴時はコミュニケーションの場として捉え、普段できない話をしたり、又、皮膚や身体状態を観察し、異変時は看護師に報告している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節毎の状況を考え(寝具・温度・衣服等)支援している。安心感が持てるよう添い寝される方等個々にあつた方法をしています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用・容量を理解し、症状の変化に気を配り医療連携を基に常に医師との協力をを仰ぎ服薬支援に努めています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	メリハリのある生活がおくれるよう、利用者の状態や出来ることに合わせて、掃除や花瓶の水換え、洗濯物をたたむなどの軽作業や創作活動の機会を提供している。		

R5.1自己・外部評価票(グループホーム太乙)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において受診等で不要不急にあたらない外出の機会はあるものの、受診以外の外出がないため、職員が付き添って中庭を散歩することで活動量が増えるよう努めている。	コロナ禍であり、利用者全員一緒に外出はできていないが、個別で近所の神社に散歩に出かけたり、買物に行ったり、隣町まで紅葉を観に行ったり等工夫をしながら外出できるように支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけた際ご本人が支払いできるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方への電話連絡等は本人の希望に応じ、いつでも電話出来るように支援しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物の配置や季節を感じられるような物品の配置を行い居心地よく過ごせる様に努めています。	リビングを真ん中に各ユニットがあり、常に行き来できるようになっている。リビングにはテレビ、テーブル、ソファが配置され、加湿器、空気清浄機も設置されている。ゆったりとした空間で車椅子での移動もスムーズにできるゆとりある造りとなっている。壁には季節の掲示物等あり、ユーチューブを取り入れジャズやクラシックが流れたり、クリスマスソングや神社の映像が流れたり、季節に応じた演出がされ、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室でテレビを見る方、みんなで体操や屋敷、お世話好きな方、椅子に座りにこやかに笑っている方、テレビで時代劇を見る歌を聴く等安心して共用されている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人にとって安心した居心地よい居室となるよう、馴染みの物や写真や趣味を行うテーブル等配置、行動スペースを確保し安全も配慮して生活されている。	居室内はゆったりとした造りになっており、ベッド、エアコン、カーテンが備え付けられている。テレビやダンス、テーブル等使い慣れた物の持ち込みは自由にでき、写真や作品等を飾り、利用者の方が落ち着いて、穏やかに過ごせる工夫がされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安心・安全に心がけ、日時が分かる様にカレンダーや時計をたくさん配置し自立した生活が出来るように環境作りを行っている。		